

### 令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	水源の森の魅力を知る地域間交流事業
事業主体 (連絡先)	木曽広域連合 (事務局：木曽広域連合地域振興課 0264-23-1050)
事業区分	(6) ウ 森林づくりと林業の振興 (8) その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	675,346 円 (うち支援金：483,000 円)

#### 事業内容

森林の持つ公益的機能を発揮させ、将来に渡り安心・安全な水の供給を図るため、森林環境譲与税の活用や木曽地域の森林整備への理解、支援を図るため上下流両地域で以下の事業を実施した。

ア：森林整備啓発事業（木曽ひのきに触れるワークショップ）

①7月30日(金)～31日(土)：名古屋市科学館（下流域）  
講義(上下流のつながり)と体験(ひのきのアロマオイル抽出、ボンボン作り)

②8月9日(月)：上松町公民館（上流域）  
講義(上下流のつながり)と体験(ひのきのアロマオイル抽出、ボンボン作り)

イ：交流の拡大（水源の森森林整備作業体験ツアー）

10月23日(土)：牧尾ダム、王滝村松原スポーツ公園ほか  
ダム・新滝見学、森林整備作業・棒パン作り体験、森林鉄道乗車



【森林整備作業体験ツアーの様子】

#### 【目標・ねらい】

ア 水源域としての木曽地域の水源を守る森林整備の重要性や森林環境譲与税の活用について、下流域の理解者を増やし間伐材の有効活用を促す。

イ 交流人口の拡大

#### ※自己評価【 A 】

#### 【理由】

- ・地域住民や関係団体との状況に応じた素早い対応や連携・協力により事業を実施し、参加者が目標人数に達した。
- ・前回までの課題の解消を図った。
- ・多様な情報発信により、広範囲な地域から参加者が集まった。

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

アは、新型コロナウイルス感染症対策のため募集人数を半減したが定員を上回る申し込みにより抽選の結果、親子15組30名での開催となった。また、今回新たに下流域の教職員と上流域の親子向けにも開催し夫々定員を上回る17名、26名が参加し講義と体験を通じ水源域としての木曽地域の重要性について学習し理解を図った。前回、実験器具を交代して使用したため待ち時間ができてしまった反省から、上松町地域おこし協力隊の協力により「ひのきのボンボン作り」を新たなメニューに加え課題を解消した。

イは、新型コロナウイルス感染症対策の影響によりバス定員が半減、開催日が延期となったが、名古屋市を中心に自家用車参加も含め27名が参加(上流域17名、計44名)し、愛知用水の建設経過や水を育む木曽地域の森林整備の重要性について、見学や体験を通じ学び理解を図った。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

アについては、上下流両地域の子供が一同に介し体験や交流をする中で森林整備活動や水源の森を守る取り組みの重要性について啓発を継続、情報を共有することにより更なる理解が期待される。

イについては、課題である降雨時の体験メニューの充実、魅力ある観光資源を活用したメニューの造成により参加者を増加させ交流の拡大を図る。また、ツアーの商品化により木工製品を始めとする木曽地域の特産品の認知度を向上させ、地域経済への波及効果につなげる。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある